

現場課題の解決には直営 職員のノウハウが必要だ

新宿区の現場実態

新宿区には、新宿清掃事務所、歌舞伎町清掃センター、新宿東清掃センター、新宿中継資源センターがあり、組合員は常勤職員132名、再任用職員22名がいます。区移管以降、3年おきに新規採用が行われていますが、今後は大量退職時代を迎えることや、当局の現業退職者不補充の考え方は根強いことなど、予断を許さない状況に変わりはありません。

いま No.47 清掃事業は… 新宿区

資源循環型社会の形成に貢献
次の特徴は、不燃ごみの破袋選別作業を新宿中継資源センター内で行っていることです。作業は委託事業者が行っていますが、不燃ごみの中から



▲歩道を埋め尽くすごみの山（現場から）

飯山 悟
（新宿区担当中執）

るために、歌舞伎町エリアでは日曜を除く毎日、早朝6時30分から収集を行っています。これらの地域ではごみ出しのルールが守られず、不法投棄や不適正排出が絶えないといった問題を抱えています。地域住民からの苦情や相談も多いのですが、深夜営業のみの飲食店も多く、日中は責任者に会うことが出来ず解決が困難でした。こうした諸課題を解決するため、ふれあい指導班は夜間や日曜出勤をしながら、根気強く店舗を訪問し理解と信頼を得ていきました。その結果、繁華街のごみ排出量を減らすことができ、2023年度からは新宿二丁目の毎日収集を廃止するまでに至りました。

小型家電・瓶・缶・ペットボトル・スプレー缶・乾電池・ライター・モバイルバッテリー・蛍光灯等の資源物や、火災原因物・水銀含有物も選別回収しています。元々は新宿中継資源センターのコンテナ火災対策として始まった事業ですが、選別品目を少しずつ増やしていき資源循環型社会の形成に大きく貢献していくことができました。

最後の特徴は、地域の見守りに力を入れていることです。狭小路地の可燃収集と高齢者や障がい者への対応は、地域の課題です。委託化が進んだことで、区民からの苦情が増え、職員の負担や責任は増えています。新宿支部は今後も自治研活動を通じて、区民目線で行政サービスのあり方や可能性を研究することで直営職員としての価値を高め、区民から必要とされる存在であり続けたいと思います。



▲資源センター内での不燃破袋選別作業の様子

全国の清掃労働者が 東京の地に結集

全国唯一の職能別組織としての歴史と伝統を守ろう!!

都市清掃第78回定期大会



▲主催者を代表し挨拶をする北川議長（大阪市役）

2月16日から18日にかけて都市清掃労働組合協議会が、東京都港区のアジュー

ル竹芝にて第78回定期大会を開催。全国各地の清掃労働者が東京の地に結集し、3日間で熱い議論を交わしてきました。23単組88名の参加で、東京清掃からは都市清掃役員・青年部・書記を含め10名で参加してきました。大会は北川議長の挨拶を受けたのち、来賓の自治労働

本部吉村現業局長と自治労働の言葉をいただき、励みの言葉をいただきました。続いて開催都市として、わたが組合の江森委員長が歓迎の挨拶をされました。また、4月の統一自治体選挙を見据え、立憲民主党東京都連を代表し塩村あやか参議院議員に駆け付けていただき、コロナ禍での奮闘に感謝とお礼の意を込めた挨拶がありました。

2023年度 四役体制	
議長	北川 滋雄 (大阪市役)
副議長	田中 有人 (札幌市労)
事務局長	多田 修一郎 (東京清掃)
会計	小川 真一郎 (佐世保市現)
	松本 真実 (横浜清掃)
	松本 賀仁 (神戸市役)

敬称略 (渡辺 歩)

最後に、賃金抑制攻撃や当局の退職不補充方針に対して、それぞれの職場・地域の課題を闘い抜くとともに、全国唯一無二の職能別組織としての歴史と伝統を守り、全国の現業・非現業を問わず情報の収集・共有をすることにより、都市清掃運動を展開・強化することに参加者全員で確認し、大会は成功裡に終わりました。

情宣活動を続けていく ために必要なものは

自治労全国情報伝セミナー
SNSの活用方法と機関紙の必要性

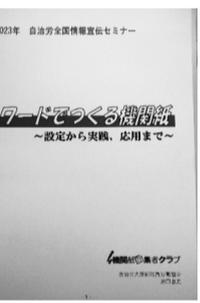
自治労全国
情報伝セミナー

自治労全国情報伝セミナーが2月10日に開催され、わが組合からは、企画・総務局の3名がZOOMで参加しました。午前中は、「機関紙・ピラ・SNS・情報発信のお困りごとご相談ください」をテーマにパネルディスカッション

会場の質問では機関紙について、「紙」ではなく「データ」での発刊を望む声が多く、対応に苦慮しているとの発言に対して、パネラーからは、時代の流れとして理解できるが、労働組合としての機関紙の意味合いを考えると「紙で手渡し」が理想であると3名のパネラーの一致した回答でした。身近なところからも「紙は無駄だ」という声が聞かれますが、「手渡し」をすることで話すことのきっかけとなると考えると「紙」であることが重要だとあらためて思いました。

「何をしたいのか」が肝心であるとアドバイスがありました。

午後からは「ワードで作



機関紙や議案を送るなど様々あるが、「取り敢えずSNS」ではなくSNSで「何をしたいのか」が肝心であるとアドバイスがありました。

午後からは「ワードで作



▼連合は今年の春闘で5%程度の賃上げを求めの方針を決定した。経団連も積極的な賃上げを企業に促していくとのことで、政府も企業賃上げをしやすい環境作りのための費用を盛り込んだ補正予算を提出し、衆参両議院で可決成立した。

▼そうは言っても、補正予算の中に占める割合は決して多い数字ではないのが気になる。ただ、今回の補正予算は物価対策中心のものである。理解はできるのだが、やはり大幅賃上げ等の労働条件改善は私たち働く者が中心となって声を上げ、世に大きな波を起こしていかなければならない。働く者自らが声をあげ、自らの手で勝ち取る必要がある。

今春闘は、公務も民間も関係なく全ての働く労働者にとって、まさに正念場だと言える。

▼なぜなら公務員の賃金が下がると民間もまた下げられ、その後は民間の賃金相場を参考にしながら下げ勧告を公務員に。お互いの関連性はとても強く、景気回復なんて夢のまた夢。そのためにも私たちの責任は重いのである。

(目黒区担当中執 天野 孝信)